

奈良県自然環境保全審議会 自然保護部会

会 議 録

1 日時：令和4年2月7日（月曜日） 10：00～11：15

2 場所：アクティ奈良スタンダードルーム

3 出席委員

来場：北口委員、小泉委員、松井委員

オンライン：岡崎委員、片野委員、木住野委員

4 部会の成立

委員総数8名中、過半数の6名の出席があり、奈良県自然環境保全審議会運営要綱第4条第4項の規定により、本部会は成立する旨事務局から報告。

5 部会長の選任

松井委員から北口委員を推挙する意見があり、これに全員が賛同し、北口委員を部会長に選任。

6 職務代理者等の指名

奈良県自然環境保全条例第16条第5項の規定に基づき、北口部会長が松井委員を職務代理者に指名。また、職務代理者である松井委員を議事録署名人に指名。

7 部会の公開について

本日の報告内容に特定希少野生動植物の生息地情報が含まれることから、特定希少野生動植物の保護上非公開とするよう、事務局より提案。異議はなく、非公開となった。

8 審議事項

「特定希少野生動植物コサナエ保護管理事業計画（案）について」

事務局より、計画案作成の経緯、計画策定事業の成果、計画案について説明。

審議の結果、原案どおり承認された。

【主な質疑内容等】

（松井委員）

奈良市の生息地はなぜ調査しなかったのか。

（事務局）

今回分布調査は計画されていなかったことと、新生息地発見の情報が寄せられたのが

成虫発生期を過ぎた時期だったため。

(松井委員)

水生昆虫は、止水か流水か、地下水や湧水があるのか、あるいは雨水なのかといったことが影響する。水温やPHは計ったようだが、アニオン、カチオン、電気伝導度などはなぜ計っていないのか。

(事務局)

ご指摘のとおり、もっと良いデータを取るべきであった。幼虫確認等に重点を置いていた。

(松井委員)

地元の人が知らないからこそ残ったという側面もある。これを普及啓発するというのは、この会議が非公開なことと、逆方向と考えられるがどうか。

(事務局)

ご指摘のとおり、難しいところ。来年度以降で、地元の小中学生を対象とした普及啓発をしていきたい。その中で、知られなかったから残ったという話とともに、今後この希少な生物を守っていくためには乱獲してはならず、また乱獲者から守らなければならないということを伝えていきたい。この生き物を守るためには地元で愛されなければならない。何かあったときに、地元からコサナエがいるからダメ、という話がしてもらえるように、地元の方には知って頂く必要があると思っている。

(松井委員)

計画に調査研究の推進とあるが、それは実施か、目標か。調査研究には費用がかかる。大学等適切な所に補助をするなどして実施するのか。

(事務局)

大学等研究機関への相談を進めている。

(岡崎委員)

生息地の一つはネイティブな池のようだが、もう一方は人為的に川の流れや止水が作られた環境か。

(事務局)

人工的な環境である。

(片野委員)

ダム湖の調査の報告があったが、ダム湖の堤体付近にはあまり本種に適した環境はないと思う。もっと流入側、河川に近い側で調査しなかったのか。なぜここを選定したのか。

(事務局)

二つの生息地に近い場所であり、飛来していると想定した。専門家が航空写真から選定した。ダム湖は広く、実際に入れたのがあの場所だけだった。入ってみると、一時利用はあるかもしれないが、確かに生息に不向きな場所だった。

(岡崎委員)

絶滅危惧種の保護では、どのエイジを守っていくのが効果的か、卵か、幼虫か、成虫かというところが大事。コサナエについては、幼虫とその育つ環境が重要だとすると、それが人工的な生息地で維持できていると思われるが、そこはもっと長期のモニタリングが必要。感覚的には生息地の一つがリソースとなって、常に拡大しているといった印象を受けた。結果的に生息地の一つでストックされているからもう一方のような人為的な環境でもある程度量が確保されているのではないかと感じた。4～5年モニタリングしてみないとわからないが、調査者の感覚として、どうか。

(事務局)

生息地の一つは古くから生息が継続してきたと思われ、主たる核になっていると思う。もう一方は人為的な場所でありながら、抜け殻も確認されているなど、発生が確実であり、成虫の個体数も比較的多い。この二つの場所は、何かしら別の要素で、生息の維持がうまくいっていると考えている。

(岡崎委員)

それであれば、人工的な生息地の環境がもう少し精査できれば、県として管理者に現状を維持できるような形で働きかけるということが、この種の保全にも通じるのではないか。啓蒙については、ある程度わかってもらわなければならないが、公にできないところもある。このあたりは県で指導していけるのか。

(事務局)

この保護管理事業計画を認めて頂けたら、来年度以降、保護管理事業へと進むことになり、その際には施設管理者も巻き込んで一緒に保護して頂こうと考えている。密に連携をとり、情報共有しながら進め、生息地で何か異変、開発が考えられるような場合には直ちに連絡を入れて頂けるような、そういった信頼関係を築いて行きたい。

(小泉委員)

奈良市でも見つかったということだが、どのような環境の場所か。

(事務局)

下北山村の生息地に雰囲気似ているわけではないが、トンボが好みそうなため池が複数ある。

(松井委員)

概要の、環境の創出、改善の項目についてだが、ミティゲーションと言って、どこかを潰すときには、埋め合わせのための施設ないし環境を作ろうという理念がある。例えば水環境の場合、100メートル離れたところに穴を掘って粘土をはったとしても、そこに水が湧いてくるかどうかは全くわからない。外れる確率の方が高い。最終手段としてこういうことを書いておくという趣旨かもしれないが、その場所が潰されたときには、もうそこはあきらめるとというのが本筋だと思う。その価値を徹底的に比較した上で、みんなが諦めるというのが筋であり、この言い訳はいらないのではないか。

(事務局)

人工的な生息地の環境ができたのは40年前であり、直近のコサナエの記録が20年前。長い年月コサナエはそこに生息してきたと思われる。私たちの方からコサナエを守っていかうと呼びかけているのに、ダメになったから諦めましょうとは地元にお伝えできない。できることはやっぺいこうと。人工的な生息地は北山川から水を取っているということなので、近くにそのような環境を創出できれば引き続き生息できるのではないか。地元の機運をそがない方向でこういった環境創出を考えているが、これは最終手段になるため、事前にできることをやっぺいきたい。